

これぞ夏合宿！槍ヶ岳北鎌尾根(中房～天上沢編)		報告者	長岡浩一 (三島労山)			
2001年8月12日	下土狩11:00～穂高温泉郷16:00～『たか』～中房温泉20:40 就寝21:20					
2001年8月13日	起床2:55～出発4:10～登山口トイレ(4:20-4:30)～合戦小屋(6:40-6:55)～燕山荘(7:45-8:25)～大天井ヒュッテ(11:00-11:45)～貧乏沢下降点12:05～天上沢14:00 就寝20:00					
標高差	△ S	1460m	～ T 2770m	大天井トラバース ≒ 1310m	体力度	1・2・3④・5・6
	▼ T	2770m	～ G 1774m (天上沢)	≒ 996m	技術度	1・2・3④・5・6
走行距離	下土狩 ～ 中房温泉 ≒ 約240 km			展望度	1・2・3・4・5⑥	
参加者	後藤隆徳	貧乏な沢を下った後は、焼肉、うまい酒、焚き火、リッチな夜だった。				
	加藤秀子	湿った薪に根性で火をつけた。そうよ、私は炎の女！				
	長岡浩一	迫る北鎌、気分を静める高嶺の花々、生ビ・・・、ギャル、いいな夏のアルプス。				
<p>12日、晴れて暑い下土狩を出発。ここ3日位不安定な天気であったが、我々の北鎌山行を待っていたかのように、回復してきた。富士で加藤さんと合流し、西富士道路へ入ると、料金所からお盆の大渋滞でノロノロとなる。これでは行き着かないと、加藤さんの案内でスイスイと52号線へ抜ける。甲府へ近づくと工事中の中部縦貫道の高架橋が延々と続き、それに沿って走る。甲府昭和のジャンクションからの1区間は、平成13年開通予定とあったが無理のようだ。開通すれば52号線も使いやすくなる。14時頃、甲府昭和ICより高速に。</p> <p>中央道は豊科まで渋滞も無く、スムーズ。高速を降りると夕立が降ってきた。穂高温泉郷の町営しゃくなげ荘で400円出して湯にはいり、街へ戻って、夕食のための居酒屋を探す。後藤さんが『たか』という小さな店を見つけ、中をのぞく。おいしい魚はあるかと聞くと、静岡から信州来て無理を言わないでという。きれいで愛想のいいママが気に入り、ここに決定。近くの肉屋で馬刺しをとってもらい、ママが作ったというニンニクでいただく。ウマイ。ペンギンというメニューがあり、いったい何だろうと盛り上がったが、酔って頼むのを忘れ、謎のままとなった。</p> <p>後藤さんと私が出来上がった頃、加藤さんの運転で中房温泉へ向かう。いつもすいません。中房へは狭くて長～いクネクネ道を延々と上る。駐車場はほぼ満車。運良く空きがあり、天泊スペースもあった。隣の豊橋ナンバーのワゴンのおばちゃま達が、川にお湯が湧いているところがあって入ってきたと言う。とても浅いが、砂に手を突っ込むと飛び上がるほど熱いという。帰りに入ってみたいものだ。テントを張り、即寝る。</p> <p>13日、満天の星。 ヘッドランプをつけて出発。橋を渡り、道路を少し歩くとりっぱなトイレがあって売店があり、その横に登山口の標識がある。薄明るくなってきたが、登山道は樹林の中でまだ真っ暗。いきなり合戦尾根の急登が始まるが、いい道でどんどん高度をかせぐ。2時間チョットで合戦小屋に着く。</p>						

大きなスイカがたくさん冷やしてあり、8分の1切れ800円。大きいので、3等分してもらい戴く。甘くておいしかった。

合戦小屋を出るとじきに左に主稜線越しに槍の穂先が見えた。槍はいつどこから見ても異様だ。すぐ森林限界となり、花が多くなる。燕山荘からはヘリコプターが忙しく離発着している。まるで曲芸飛行のようだ。ヘリがあんな飛び方



燕山荘前にて、槍を見ながら最高のお食事

できるのかと驚く。下山して来た人に聞くと、4日間も天気が悪くて飛べなかったのも、荷物の上げ下げに忙しいらしい。お花畑を過ぎると燕山荘に着く。燕岳へ行っていないという加藤さんは、傘をさして走って往復した。

大天井岳へ向かう縦走路は、花がいっぱい。女王コマクサ、チシマギキョウ、イワツメクサ、タカネナデシコ、ウサギギク、ハクサンフウロ、タカネスミレ？キバナノコマノツメ？、シオガマの仲間、コゴメグサ、高嶺の花とはよく言ったものだ。どれも繊細可憐で実に美しい。私は大柄で丈夫そうな人が好きだが。あっ、関係ないか。

右の谷底、湯俣のあたりに鮮やかな青いプールのようなものが見えた。発電用の取水用小ダムか。蛙（げえろ）岩の割れ目の中にとっても人間のものとは思えない、直径5cm以上はあろうかという太いウンチがあった。そばにティッシュがあったからやはり人間か。紙を使うイエティか。こんなところするな。

大天井岳へ近づくにしたがって、槍と北鎌がどんどん大きくなり、不安も大きくなってきた。片手で岩場をちゃんと登れるだろうか。大天井岳は北側山腹をトラバースする。結構急な岩場だ。尾根に出たら、急降下して大天井ヒュッテに着く。石を落としたり、小屋の窓に飛び込みそうだ。

ヒュッテ前のテーブルで大休止。陽は強いが、風は秋風のように涼しく乾燥している。行動食の他に、小屋に生とカップラーメンを注文する。大きなリュックを担いだ、高校生くらいの双子のかわいい姉妹がいた。また、男女それぞれ3人ずつのヘルメットを持った50代のパーティーがいて、話をすると今日はこのヒュッテに泊まり、明日北鎌へ行くらしい。広島から来たそうだ。小屋で酒とビールをたくさん買い込み、出発。

大天井ヒュッテから20分ほどで、貧乏沢への下降点であるコルに着く。貧乏沢の上部はブッシュがひどく、また岩がぬれていて滑るいやな下りだ。これは早朝、ヘッドランプでは苦勞するだろう。下り始めてまもなく登ってくる人に会う。こんなところ登る人がいるのかと不思議に思ったら、仲間が滑って膝をひどく傷め、動けないので



へりを頼みにヒュッテまで行くと言う。ルートはどんどん急になり、ものすごいガレ沢になってきた。崩れてとても歩きにくい。流れが出てきて傾斜は少し緩んだが、また岩が滑るようになってきた。疲れも出てきたので慎重に下る。天上沢に出る少し手前に、膝を怪我した登山者と付き添った人がいた。元気そうだが、全く歩けないといていた。単独行だったら、些細な怪我でも命にかかわる。ここは無線も携帯も通じない。また谷幅が狭くへりも大変そうだ。

天上沢に出て川原を少し登り、流れが無くなる場所にテント場があった。もっと上に水は無いのかと思ったが、加藤さんの事前の下調べでは無いとのこと。明朝、暗いうちに出発するので、後藤さんと私で北鎌沢の入り口の確認に行く。なる程、水は無かった。テント場に戻ると、へりが飛んできて、貧乏沢の上空をぐるぐる回っている。谷が狭いので大変そうだ。まず負傷者一人だけを街へ運び、付き添いと救助の人は、広い天上沢に出て再び飛んできたへりに引き上げられていった。ピクリとも動かないホバリングに感心した。

沢の岩陰でスッポンポンになって水を浴びる。気持ちいいが冷たくて痛い。テントを張り、薪を集める。夕食は、加藤さんがニンニクに漬けてきた肉で焼肉。おいしいこと。大量のビールと酒はすぐなくなった。暗くなってきたので、薪に火をつけようとしたが、湿っていてなかなかつかず、加藤さんがマッチ1箱と計画書全部を燃やしてやっと火をつけた。北アルプスにあって、誰もいない別天地に燃え上がる炎。闘志も燃え上がる。明日はがんばるぞ。

CLのひと言

1. 初めて夏のツバクロ〜大天井を歩いたが花の種類、量がずいぶんケキ。特にコマクサは延々と1Hあった。スゴイ。
2. 天上沢泊りは正解だった。ヒュッテ泊りの広島隊は結局2H夕立に会い肩に未着。
3. キャンプ用のゴムどうり、シート、タキ火用の新庫飯があると良い。



高尾の山頂の風景、山頂の展望



山名	槍ヶ岳・北鎌尾根	報告者	加藤 秀子		
この山のセールスポイント	痩せた尾根、切り立った独標のトラバース。北鎌はやはり凄い！				
8月14日(火)コース及びタイム	起床 3:00/4:15~北鎌沢コル6:30~北鎌平12:25 ~槍ヶ岳頂上 13:45/14:45 ~槍平小屋 16:25 (泊)				
標高差	△ 1,800 m	▽ 3,180 m	≡ 1,380 m	体力度	1・2・3・4・5・⑥
	▼	m	m	技術度	1・2・3・4・5・⑥
				展望度	1・2・3・4・5・⑥

CL	後藤隆徳	54	夏も結構手応えありだね。
	加藤秀子	52	北鎌から槍の頂上に立った時感無量。
	長岡浩一	41	スゴイところをヤッてしまった。



三日目

テント一張りの静寂な眠りはコーイチの目覚ましを告げる時計のアラームで起こされた。谷間の底は未だ暗闇だ。昨夜の焚き火は、見事な灰に変わり余韻を誘う。苦心惨憺して起こしたチロチロ燃える焚き火の前で、ビール片手にトットツと歌うCL。天上沢のせせらぎが伴奏し煙がはもる。透き通った声が闇の中へ浸透し、大自然のギャラリー達もきっと喜んだに違いない。優雅で最高の一夜であった。

貧乏沢を出発。広い河原を10分程で北鎌沢出合いとなる。大きい岩がゴロゴロ転がる沢の急登を暫くいくと二俣になり北鎌沢右俣に入る。入口は貧弱でちょっと分かりづらい。途絶えていた水が岩の間をチョロチョロ流れ、それもそのうち涸れて更に急登になった。ミソガワソウがちらほら目につく。上部のガラ場はひどく悪い。足が少しでも下にずれると『ラクッ!』の連発だ。

やっと抜けてホッとしたのも束の間、更に急登の草付きの斜面が待っていた。草は細長く下に垂れて、足元がかからない。まかり間違えば一気に転落だ。草を束ねて掴み、四つん這いでとりつく。階段を登るような急登に、アイゼン・ピッケルが欲しかった。右手が不自由なコーイチには酷な登りだった。約2時間ばかりのこの行程に完全にギブアップ。後に影響が大きかった。CLは30年前の5月、此处を登ったというが信じられない傾斜に雪がついたらどうなるんだろう。本人は『全く記憶なし』と涼しい顔。

北鎌のコルで一息。痩せた尾根はこれからの行く手を暗示しているかのようだ。身体は既に食物を受け付けない。今の急登で体力を消耗してしまったのか。気持ちがあせる。ダケカンバや這い松の痩せ尾根の登下降を繰り返して高度をあげる。崩壊の激しい砂礫帯では慎重を期し第1回目のザイルを出した。尚も小さなピークを幾つか越えると天狗の腰掛け

に着く。稜線上の涼しい風に、吹き出した汗が一気に引いて気持ちいい。目前に独標が大きく立ちはだかり、その威圧感にブルッと身震い。

右側にはギザギザした険しい硫黄尾根が屏風のように並ぶ。陽に照らされ、輝くような黄土色がとても美しかった。でも『硫黄尾根に登ってみたいなんて言わないゾッ』。コーイチと二人で言いながら、大分疲れているねと苦笑いする。

『さあ、本番はこれからだ。楽しみながら行こう』いつもながら元気で頼もしいCLの一声で重い腰を上げた。北鎌沢左俣が突き上げ、北鎌尾根も険しい岩稜に変わる。2899mの独標は千丈沢をトラバース。もろい岩を押さえ込むように攔まり、慎重に進む。切り立った崖のハングした岩を、ザックが引っ掛からないように這いずりながら膝で進む時は冷や汗ものだ。尚も踏み跡を忠実に辿ると道は崩壊していて完全に遮られている。トラバースではないと直上するが、やはり駄目で元に戻る。下りはロープでザックを先に降ろし確保で下りる。

常に右下にある千丈沢は遙か下までスッパリと切れ込み、オイデ、オイデをしているようで不気味であった。壮絶な遺書を残して帰らぬ人となった《風雪のビバーク》の主人公、松濤明とか単独行で有名な加藤文太郎はどの辺で死んだんだらうか。フッと頭にかすむ。特に松濤明の逝く友への最後まで心配りと、死と真つ向から立ち向かう行動と冷静な判断力に、死と直面した時に並の人間では到底出来得ないだらう行為を、私などでは到底推し量る事はできないが涙が出て止まらなかった。人の生き様は死に際に出るものなのか。心の中で合掌。

1ヶ所、数年前の地震で大崩壊した所にかかる。CLが右に左に懸命にルートを探すが非常に悪い。30分経過した。あまりノンビリも出来ない。その時、私が『そういえばブッシュの人が1ヶ所直上する所がある』を思い出してCLに伝える。ルートは正に直上で北鎌に光明がさした。

槍も段々大きく姿をみせトラバースも終盤にかかる頃又も道に詰まった。北鎌尾根14回目という先人がウロウロしている。見渡すとトラバース線上に微かな踏み跡があり続いているが目前の岩場が通過できない。後ろから大天井ヒュッテの従業員が追いついてきた。北鎌には月に1回下見に来ると言う事だが、くる度ルートが変わると言っていた。どちらにしても無理のようだ。CLが岩場を真っ直ぐ登り始めた。皆その後が続く。

北鎌平で一息入れる。槍の穂先がデッカク、天を突くようだ。子槍、孫槍、曾孫槍？まで見える。身体は重たく何も口に入らない。脇ではCLもコーイチもよく食べていた。端で見えて、パクパクよく動く口がとても羨ましく思えた。食は全てを制すだね。時折ガスが出、展望を閉ざす。

念願の北鎌尾根からの槍は目の前だ。『泣いても笑ってもあと少しだ。頑張ろう。』CLの促しに身体を奮い立たせ重い足を引きずった。大きい岩屑を渡り歩くように飛び越し、北鎌平に出、大槍の登りに取りつく。チムニーは右側を巻いて、ザイルを使いその上に出る。頭の上

で人声がする。上をのぞくと見覚えのある祠がチラッと見えた。熱いモノがこみ上げる。後は階段上を一登りで槍の穂先にヒョイと出た。頂上は大勢のギャラリーが大喝采。思わず目頭からホロリと一粒零れた。着いたんだ〜。

やっと着いた。私はとうとうやったのだ。あんなに憧れた北鎌尾根、夢にまで見た北鎌、もう登れないかと諦めていた北鎌、その北鎌がとうとう足元になったのだ。「山をやっていて良かった」この山頂でつくづくと思った。話しに聞いていた以上のスケールの大きい尾根に十二分の満足感に浸った。CLもコーイチも目がクシャクシャだ。本当は3人で抱き合い大泣きしたかったナ。疲れも何処かへ吹っ飛び、『ウレシーッ!』飛び上がって喜んだ。

記念写真をとっているとポツンと一粒。雨だ。そそくさと頂上を下る。山荘に入るや否や、其れまで待っていてくれたかのように大粒の雨が落ちてきた。とにかく生ビールで乾杯し少しの休憩のあと、ザンザ降りの雨の中を飛騨沢から槍平まで急ぐ。頭上ではゴロゴロ雷が咆哮し、そのたび雨が激しくなった。昨日、大天井で会った女性3人を加えた大分?熊本?6人のメンバーが、今日貧乏沢を下り、北鎌尾根を登って来る予定と聞いている。貧乏沢と北鎌沢右俣の厳しい行程を考えると今頃どの辺を歩いているのだろうかと心配をしてしまう。

途中、男性が足の筋が詰まってかなり酷い状態だという男女二人連れに会った。戻った方がいいのでは?と思ったが、其れでも引きずりながら痛そうに雨の中を登って行った。頂上までかなりあるのに、大丈夫だろうか。登山道は激しい雨で、瞬間に川に変貌した。水の中の石を滑らないように、川床になった所を選んで歩くので靴は中までしみ込み、濡れた靴下の摩擦で足の裏が非常に痛い。右側には中崎尾根が延々と続く。

無言でひたすら歩く。中崎尾根が切れた頃、傾斜も緩み雨足も遠のいてきた。右手に川が見えテント5張りあるテン場を過ぎ、やっと槍平小屋に到着。手続きを済ませ部屋で寛ぐ。今日は広い布団を一人占めに出来るらしい。夕食を済ませると、直ぐに寝入ってしまった。

※登攀要素をふんだんに含んだ北鎌尾根は、体力・精神・技術・ルートファイディング・アクシデント対応能力、全てが要求される行程だ。安易な気持ちでは入り込めない地域である。今回の体験から私は自分自身に多くの課題を与えられたような気がした。この課題にどう研鑽していくのか、これから又励みにもなり楽しみでもある。奥が深い遊びという語弊があるが、どんなに厳しい山でも、それなりに遊び心を持てるような体力・技術等を見につけ、真摯に真剣に山へ望みたい。もしかしたら、私も一人前に山ヤという人種に一步近づいてきたかなと一人で苦笑する。とにかく、とっっても心に残る北鎌尾根でした。

大反省

- ①10mザイルしか用意せず困った。20mは必要である。もう少し下調べを入念に。
- ②行動食の固形物は、疲れ過ぎると受け付けない。結果、重い固形物を下山まで持ち越し余分な労力となる。即エネルギー源になるゼリー状の飲物の方が良かった。



。るも新開の衆野の對三回一具、片ち如辭て氣難難門事谷・事

同術事 4

の林1 難且J 片材具さ檢次の会員委審部、J 流結さ難門事谷お風術事

。るも行候・衆難さよごお

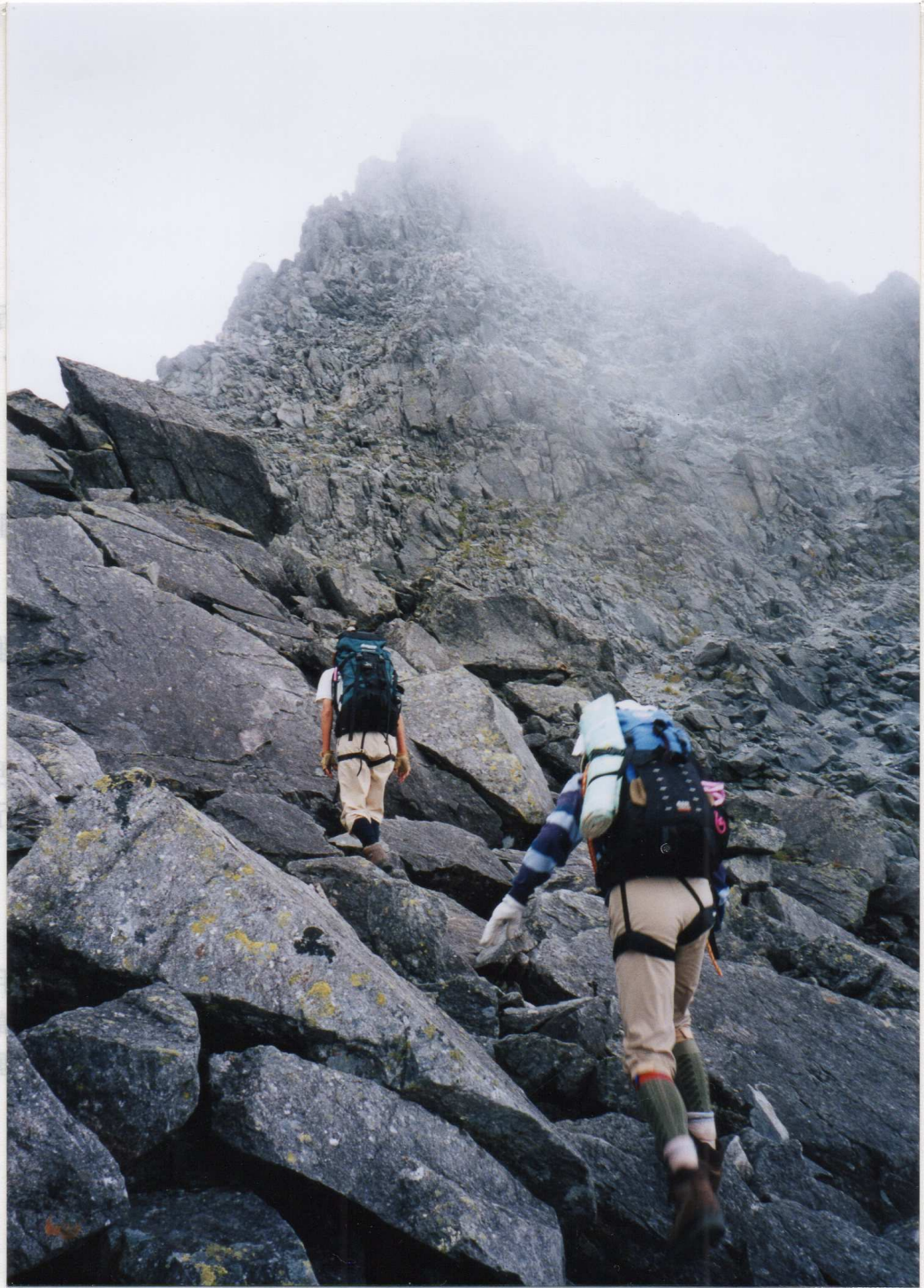
会醫學 5

。るも新開の嶺に檢次の難育難

会難門事 6

。るも片材具さ檢次の嶺に宝央会録

葉



行候

難

の世

具、頭

難

山登



北鎌尾根によせて

憧れのバリエーションルート
後藤さん、加藤さんありがとう

まさか、北鎌へ行くとは思わなかった。高校生の時、山岳部の（私は陸上部だった）夏山合宿で蝶ヶ岳から燕岳迄連れて行ってもらい、びっくりするような穂高と槍、それに続く北鎌尾根を目にした。また、数々の山の本を読んだり山行を重ねるうちに、ごく自然に誰もがそうであるように、一般ルートではないもっと険しい岩山へあこがれるようになった。

でも私の右手には、生まれつき指がなかった。右大胸筋も欠損していた。おまけに私は臆病で引っ込み思案である。迷惑になるとか、どうにもならなかったらどうしようとかすぐ考えてしまい、岩をやる仲間に入っていく勇氣はなかった。大学生の時、バリエーションをやらないワンゲルに入った。活発なサークルであったが、仲間の一人はバリエーションがやりたくて山岳部へ行ってしまった。うらやましかった。

自分は、歯がゆくて悔しくて腹がたったが、どうしようもないとあきらめていた。そのうち何も感じなくなってしまった。

しかし、42歳にしてチャンスは訪れた。昨年、裾野レイホーの後藤さん、加藤さんと静岡山スキーの会として山スキーに行く様になり、今年5月連休の、日本ミニオートルート（南半分）の時であった。双六小屋で、加藤さんから、「夏に北鎌尾根やってみないんだけど、長岡君もどう？」というお誘いを受けた。

私は「そりゃ行ってみたいけど、オレ三点支持できないから岩はだめです。」と答えた。すると、「行ってみたいなら、やってみなさいよ。長岡君にはもっといろいろな事にチャレンジしてほしいな。」と言われ、先生のような情熱を感じた。よし、こんなチャンスもうない。後藤さんと加藤さんの前なら、できなくて泣いたっていい。一緒に泣いてもらおう。無事槍まで登れたらうれし泣きしよう。「やってみる。」と言い直した。後藤さんは、冬も含め3回北鎌をやっているのだから、もう行きたくはないが、「二人にそういう気持ちがあるなら、喜んでガイドしよう。」と言ってくれた。

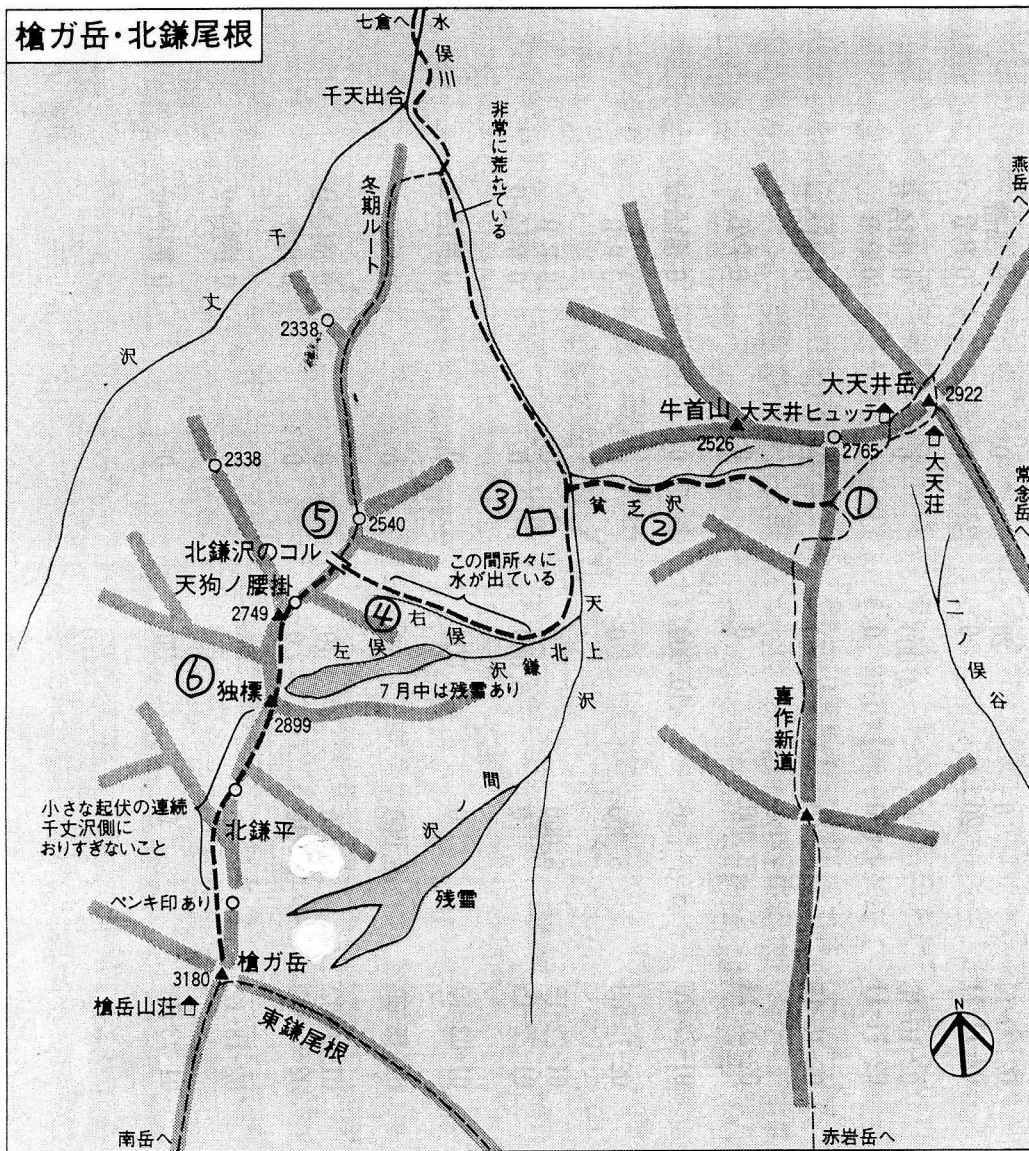
ゼルバンとヘルメットを買い、試しに6月に初心者向きの沢登り、葛葉川へ行ってみた。そこそこ登れ、面白い。後藤さんも「北鎌も大丈夫だろう。」と言ってくれた。体力的には問題ない。計画は本決まりとなった。



いよいよ本番。我々の山行に合わせたかのように天気もばっちりだ。アプローチは、中房温泉から大天井岳まで縦走し、貧乏沢を下る。翌日、北鎌沢右俣をつめ北鎌尾根へ出るが、尾根に出る手前に難関が出てきた。とても急な草付だ。草を掴みながら四つん這いで登るが、滑るし草はヒョロヒョロで、おまけに左手でしか掴めない。言葉も出ず、まさに必死で登った。尾根に出てしばらく行くと本格的な岩稜となり、所々ルートが崩落して無くなっている箇所もあってルートファインディングが難しいが、後藤さんのリードで順調に進んだ。また、悪場ではザイルで確保してもらった為安心して登れ、思ってた以上に登れる自分にうれしくなる。練習すればもっと登れる。うれしさを噛みしめながら延々と岩稜を登るうち、槍の穂先が大迫力で迫ってきた。私には絶壁に見えた。確保されながら必死で登るうち、人の声がして上を見ると頂上のほこらがあった。長かった。大勢の登山者の拍手を受けた。でも流れるだろうと思っていた涙は出てこなかった。これが始まりだから。



槍ガ岳・北鎌尾根



- ① 貧乏沢 下降突... 標高はあるが、気をつけないと見過ごしてしまいそう。大天井ヒュッテより約20分位の所。
- ② はじめは木の根をつかまり、枝をほらいながらの下降。沢に入るとガラガラの岩を石と落とさないうれしく下る。一ヶ所ザイルを使いたい。
- ③ 天上沢の出合には、この張程張れるテン場あり。水は豊富。
- ④ 少しわかりづらい。ガラガラの急登。上部、おもしろい草付の、大急登。なるならアイゼンとツッケルが欲しいところだ。
- ⑤ 木の根の張った、せせら尾根のコル。
- ⑥ 千丈沢をトラバース。スツパリ切れて、高度感あり。初心者ザイルが必要。



遭難救助の長野県警ヘリコプター

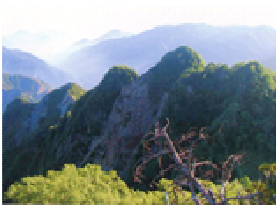


北アルプスにあつて、誰もいない、無料のすばらしいテン場。

ヒデコさんが用意したニンニク漬けの肉を焼く。おいしかった！



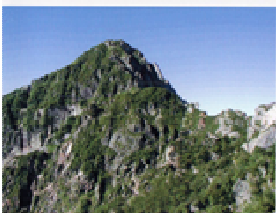
マッチを全て使い、計画書も燃やして、湿った木にやっと火が着いた。あおるヒデコ姉さん。



P8トより P7方面

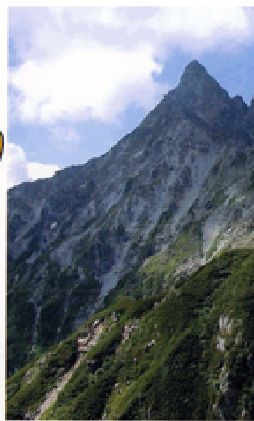


おいしいものは重い！



天狗の腰掛けから独標

迫る槍



泣いてるの？笑ってるの？

おわり